

グローバル化下の 国際開発援助

国際公共財を巡る
世界銀行と北欧諸国の
パートナーシップを中心として

2004年2月21日

202D0339 山田浩司

問題意識

国別援助手法の限界

v モノ、人、サービス、資本、情報が各国規制緩和により、地球規模で自由に移動



v 国境を超えて広がる「外部経済」: アジア通貨危機、酸性雨、SARS、情報、テロ



v 各国が直面する課題には、1国だけでは解決することが難しいものもある。

論文の目的

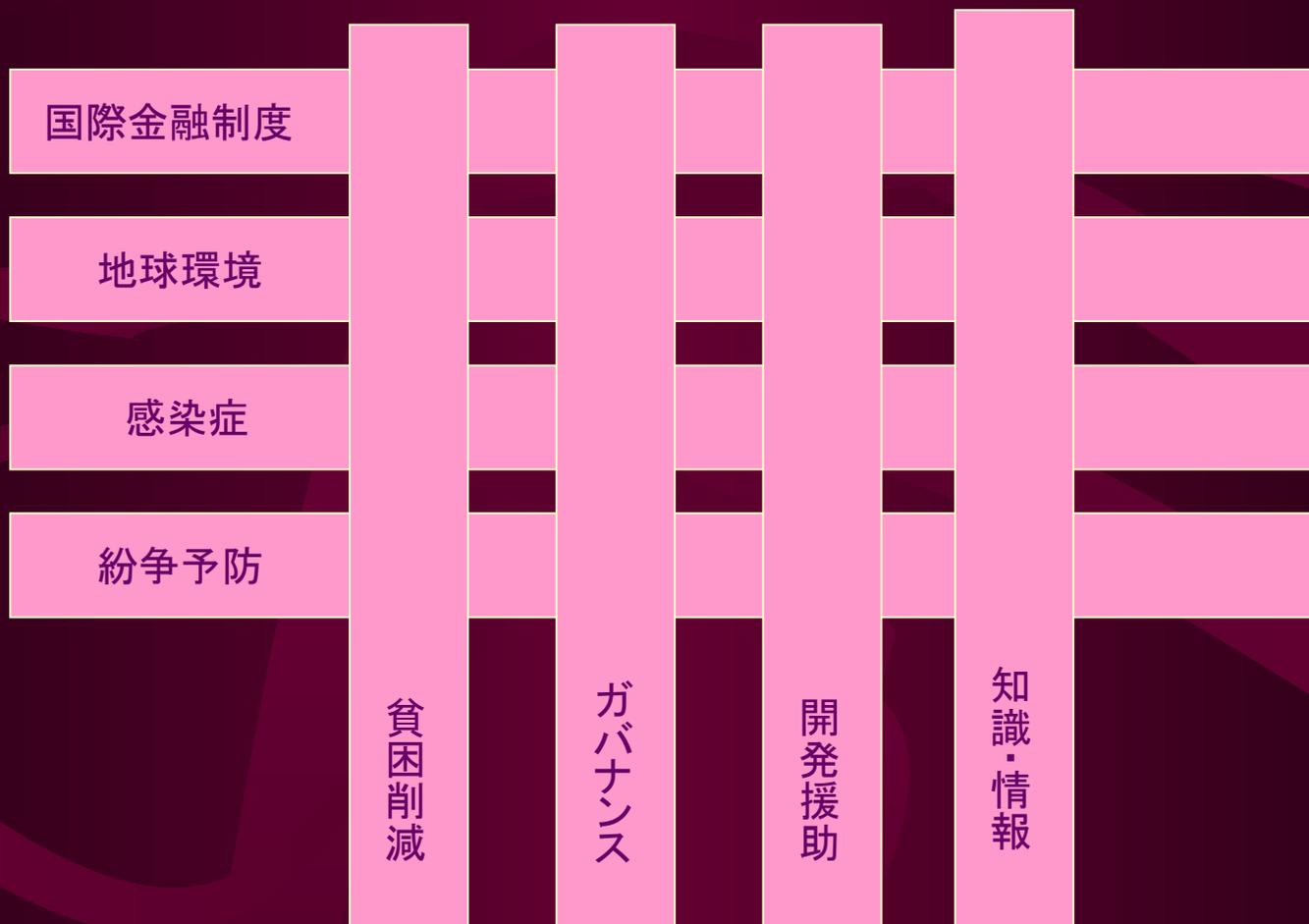
1. 国際公共財論の概要レビューとその背景の検討
2. 国境をまたぐ課題に対する世銀の取組み、それに対するドナーの支援状況整理
3. 北欧諸国が国際公共財支援に積極的に取り組む背景の考察
4. 日本の開発援助の効果改善に向けた課題の整理

国際公共財

(International Public Goods / Global Public Goods)

- v 公共財の特徴：
「消費の非排除性」「消費便益の非競合性」
- v 公共便益が国外にも波及
- v 公共便益の普遍性：
受益国数、人間集団間、世代間
- v 公共便益の集計方法による4分類：1)単純加算、
2)ベストショット、3)最小連結、4)加重加算
- v 財の特徴によっては、最適の供給方法が異なる。

国際公共財の8類型



国際公共財論の背景

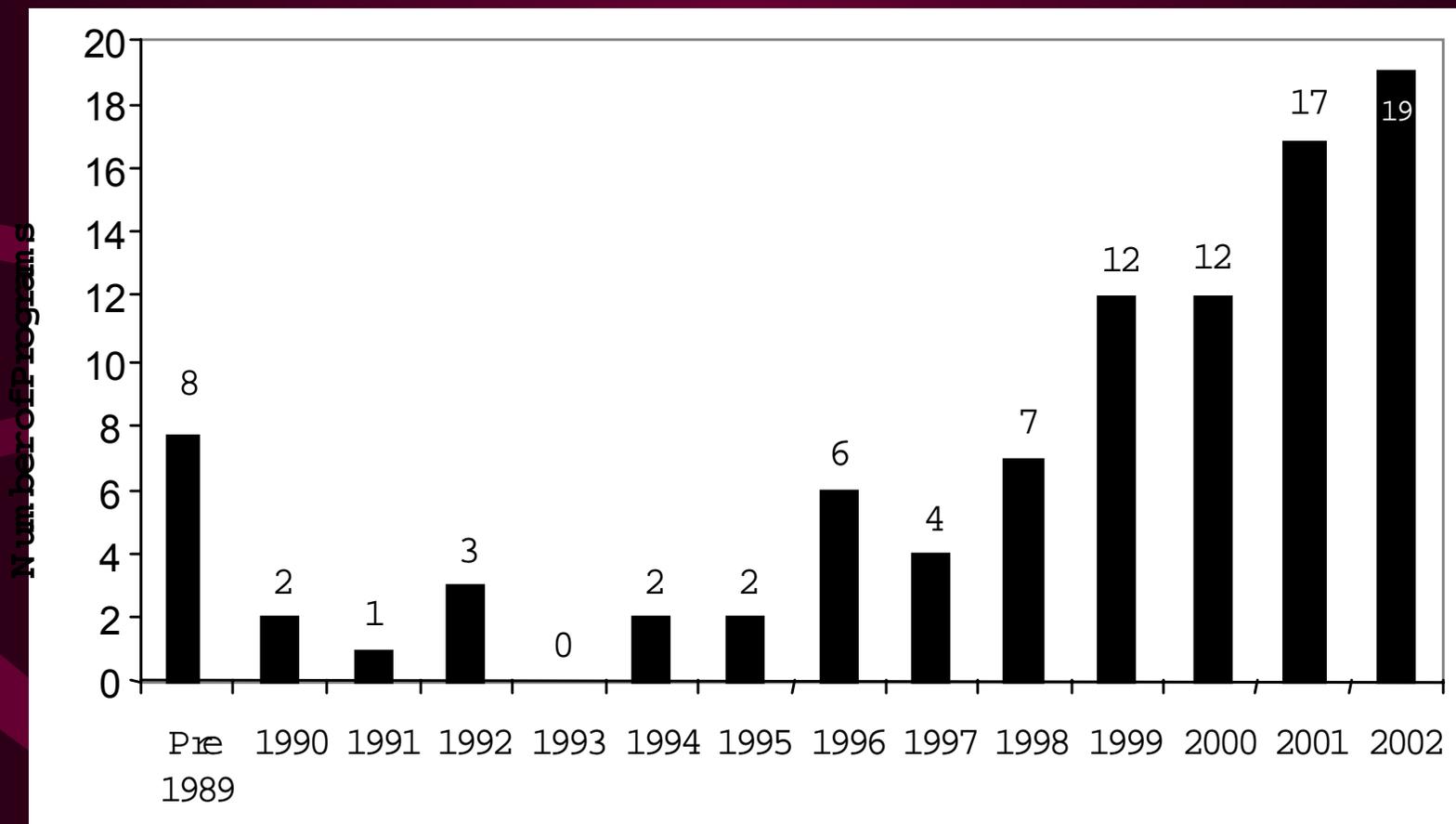
- v 超国家レベルで起きる「市場の失敗」と政府の不在
- v 公共財の過小供給懸念：
アジア通貨危機、感染症、地球温暖化、国際テロ
- v 課題のグローバル性とアクターの多様性：
「参加のギャップ」の拡大

- v 国際金融機関改革論議（米メルツァー報告）：
世銀と地域開発銀行は国際公共財供給者に徹す
- v 世界銀行：国別援助を補完強化する資源動員メカニズム考案の必要性

国際公共財に係る世界銀行の取組み

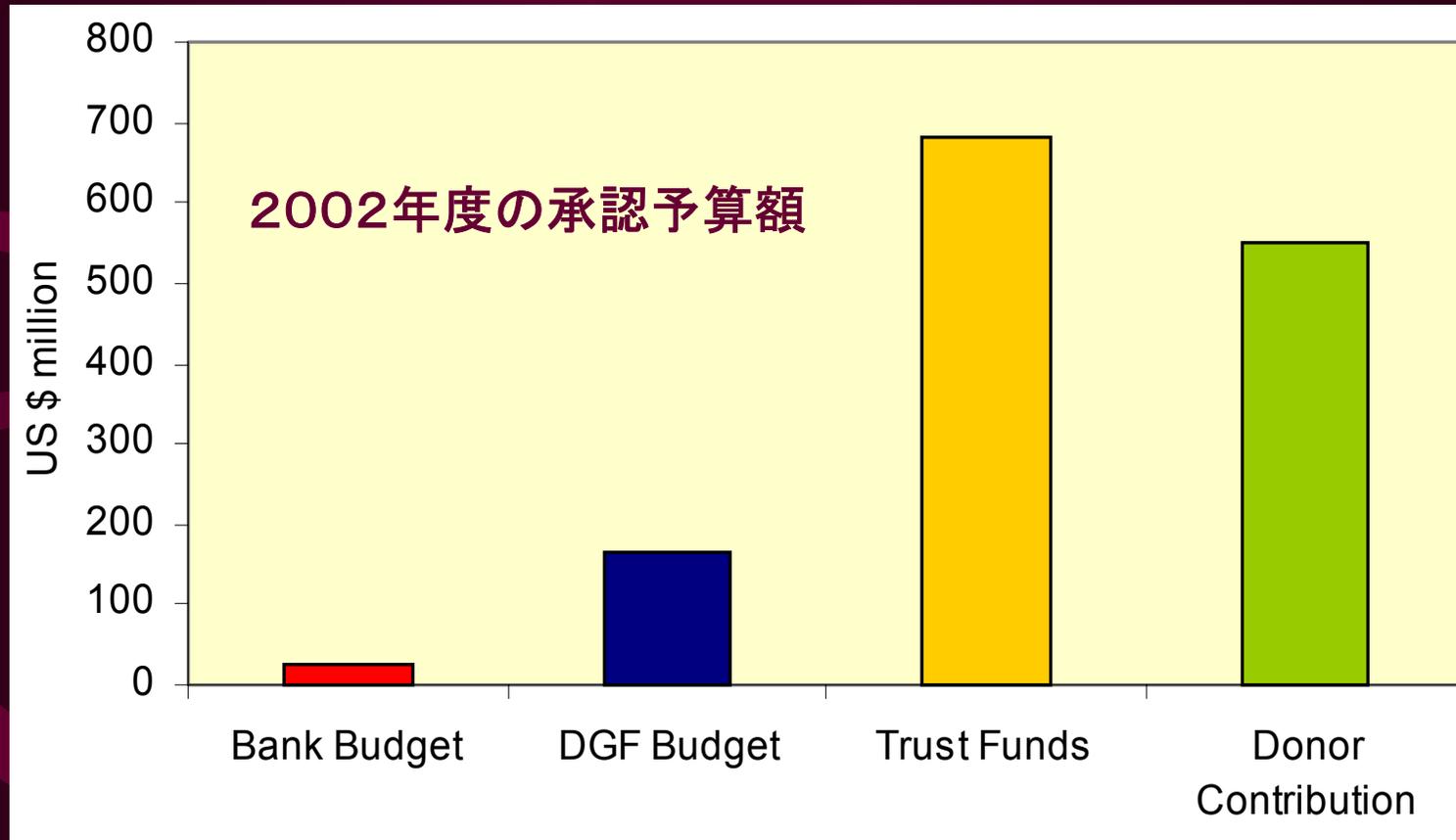
- v 1997.9 開発グラントファシリティ (DGF)
- v 2000.6 グローバル公共政策とプログラムに関するワークショップ
- v 2000.9 アフリカ・マルチカントリー HIV/AIDSプログラム (MAP)
- v 2001.1 ストラテジック・フォーラム
- v 2001.5 “Global Development Finance 2001” 発表
- v 2002.5 金融セクター改革強化イニシアチブ (FIRST)
- v 2002.8 業務評価局Global Programs & Partnerships評価レポート発表
- v 2003.9 譲許資金・グローバルパートナーシップ局 (CFP)

世銀GPP開設件数の増加

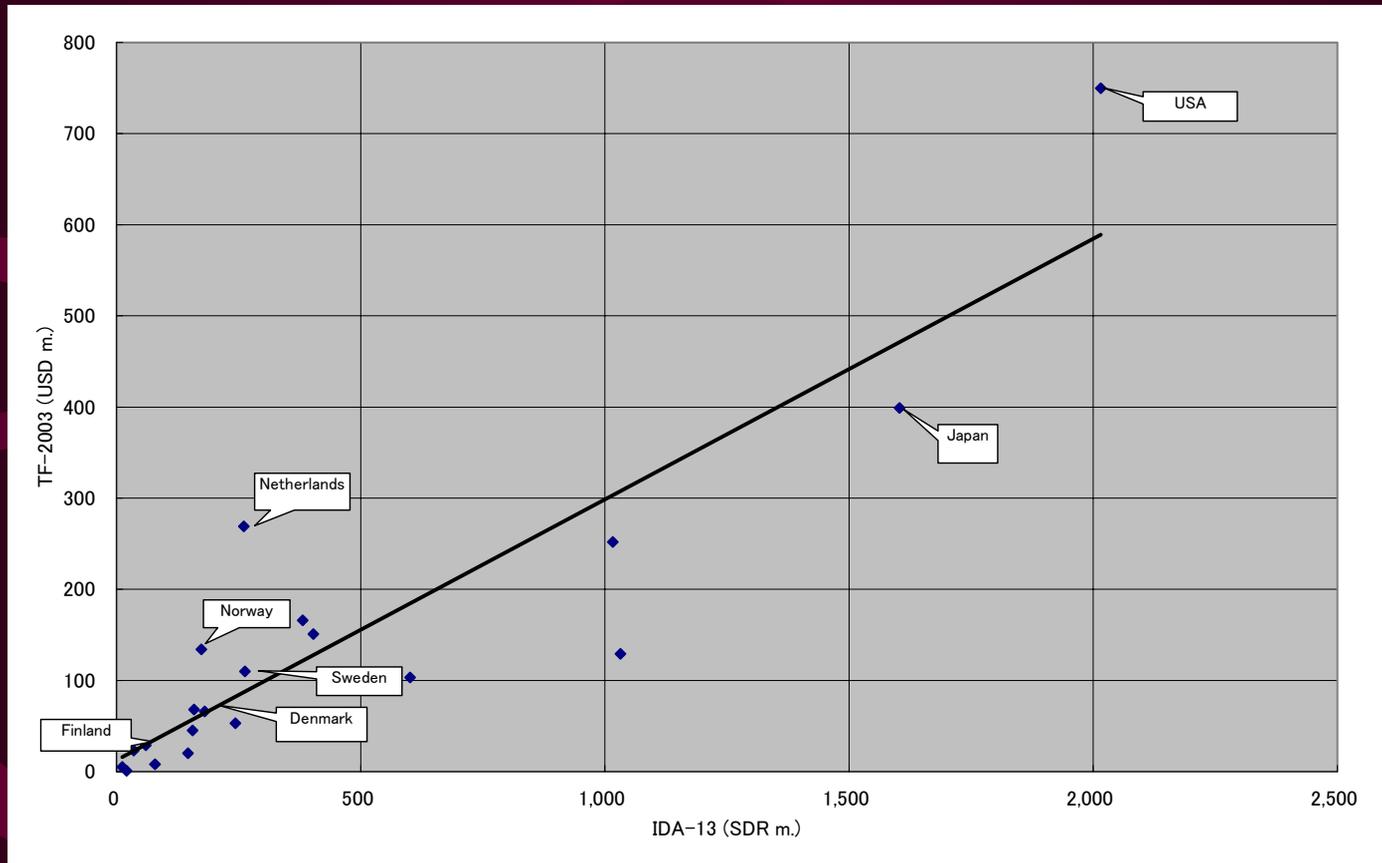


出所：世銀John Underwoodによるプレゼン資料より

世銀GPPの財源

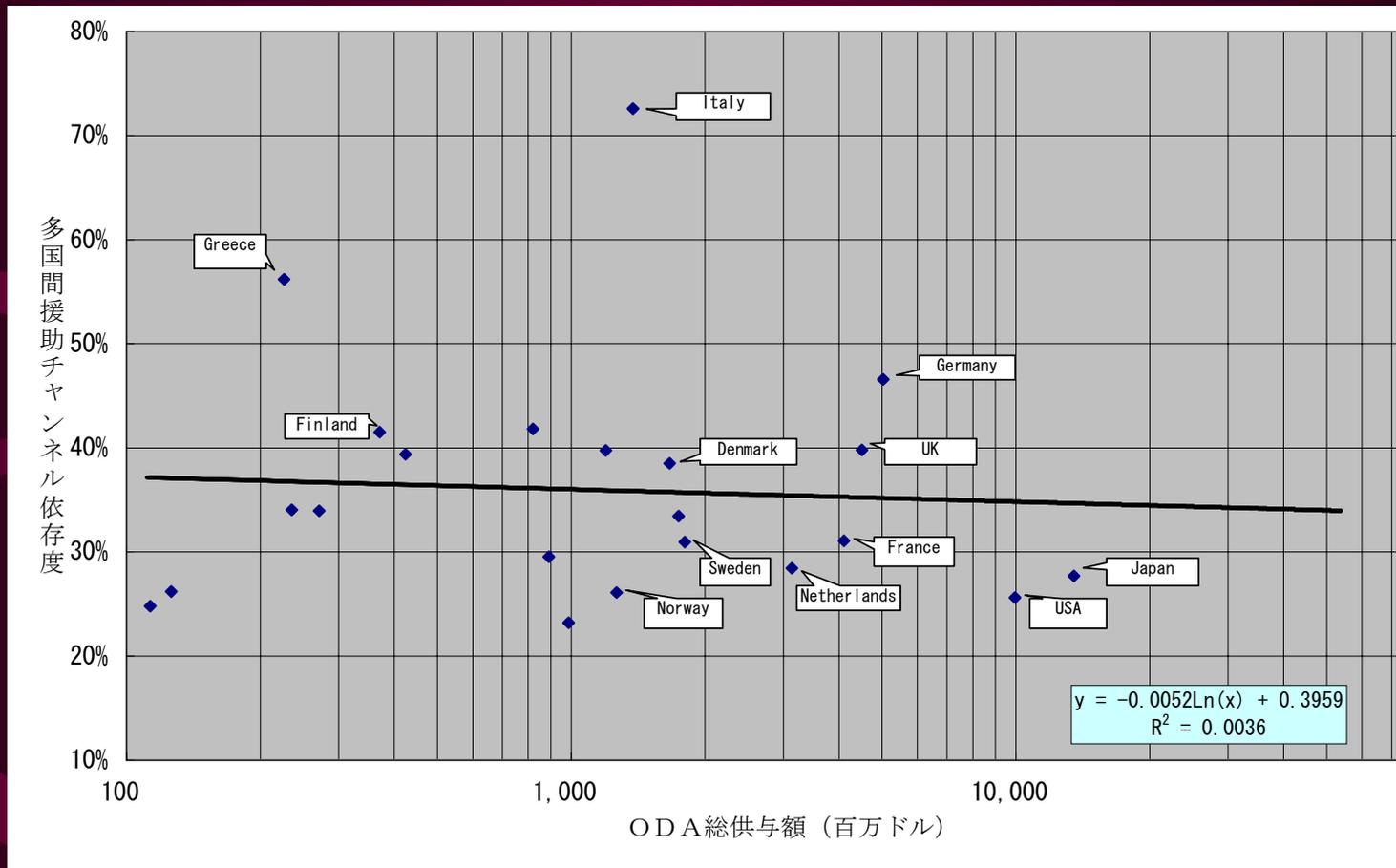


世銀信託基金プログラムに対する ドナーの支援



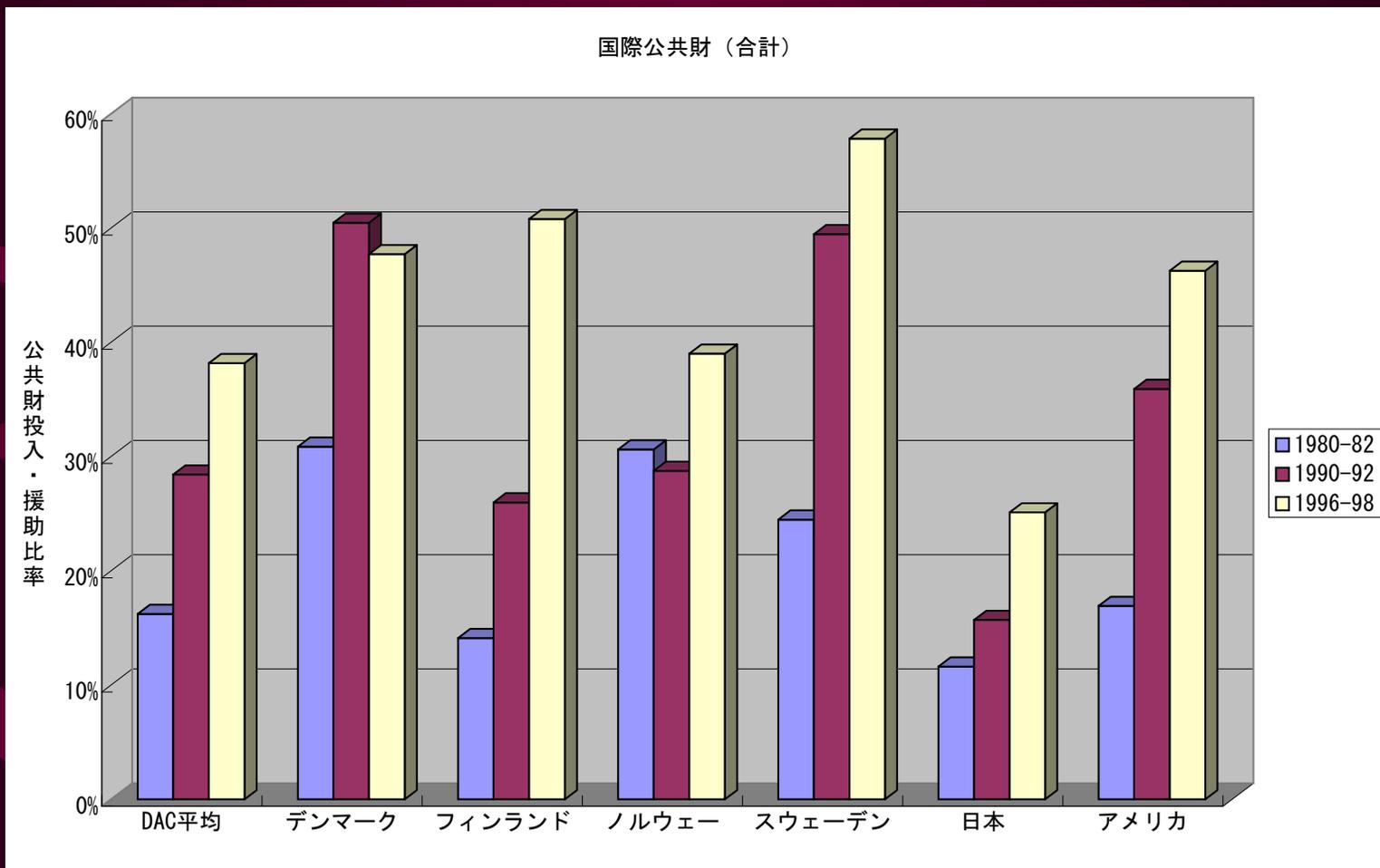
出所： IDA-13 Replenishment, Trust Fund Financial Report

北欧諸国は多国間援助を多用しているか？



出所: DAC Development Cooperation Report 2001

北欧諸国の国際公共財支援



北欧諸国を国際公共財に向かわせたもの①

v 利他的動機：LLDC支援中心

v 利己的動機：

- ┌ サブサハラアフリカLLDC支援→受益国と地域の安定化→自国の安全保障
- ┌ LLDC社会経済の安定化→自国への移民流入圧力軽減→自国社会の安定化
- ┌ LLDCへの安定的資金供給、ODA-GNI比率、アンタイド化推進→途上国からの支持→国際社会からの評価→発言力の強化

北欧諸国を国際公共財に向かわせたもの②

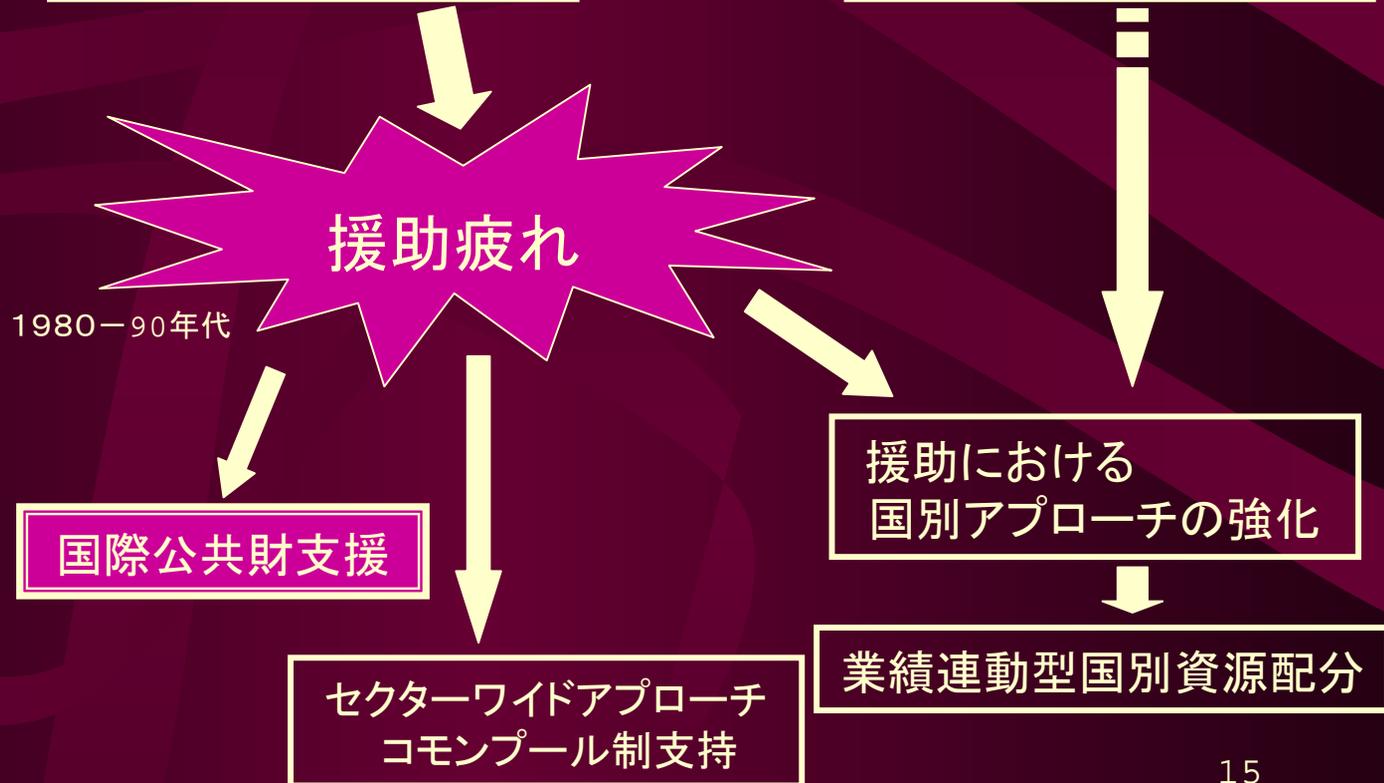
二国間援助

多国間援助

NGOを通じた
草の根支援

特定重点国(LLDC)に
対するグラント集中

国際開発機関における
影響力の行使



日本の開発援助に対する示唆

1. 国際公共財支援は、従来型国別援助に比べて国内の支持を得やすい。
2. 援助は国際公共財供給の唯一の手段ではない。政策の一貫性が大切。対外政策の中央管制機能が必要。
3. 「参加ギャップ」の解消—地球規模の開発アジェンダに関する意思決定プロセスへの市民社会の参加促進
4. 中国・北朝鮮の行動選択は日本への波及効果大—関係改善に向けた努力と経済支援の検討準備が必要。
5. 国際的なルール作りへの積極参加。国際公共悪の影響を受けやすい住民の目線に立った知的貢献

Thank you for your
attention!!